

甲府の少年 母の不法滞在で退去処分

日本在留求め提訴へ

来月 組織設立、費用を支援

不法滞在の母親の元に日本で生まれ育ち、東京入国管理局から8月に退去強制処分を受けたタイ人の中学3年の男子生徒(14)＝甲府市＝が来月、処分の取り消しを求めて東京地裁に提訴する。男子生徒は日本から出たことは一度もなく、日本で進学して働くことを希望している。6日には市民有志が裁判を支援する組織を設立し、署名活動などを始める。

〈窪田あずみ〉



高校受験を目指し、山梨外国人権ネットワーク・オアシスが開く「子ども会」で勉強するウォン・ウティナン君(右) 甲府市愛宕町

退去強制処分を受けた男子生徒はウォン・ウティナン君。支援者によると、2000年に甲府市内で、人身取引されてビザがなく入国したタイ人の母親(42)とタイ人男性の間に生まれた。母親と男性は間もなく別れ、ウティナン君は、不法滞在の発覚を恐れた母親に連れられ、山梨県や長野県などを転々とした。保育園や小学校には通っていない。11歳のころ、山梨外国人権ネットワーク・オアシスが主宰する外国籍の子どものための勉強会に通い始め、日本語の読み書きから勉強し、昨年4月に甲府南西中に入學。ウティナン君は「最初は緊張して人と話せなかったけれど、今は友達と一緒に授業を受けたり、合唱したりするのが楽しい」と話す。現在は働きながら定時制高校に通うため、受験勉強に励んでいる。

在留特別許可を得て日本で暮らし続けるために昨年、母親とともに東京入国管理局に出頭したが、今年8月に退去強制処分を受けた。ウティナン君は「今までの人生が全部駄目だと言われた気がする」と話し、現在は一時的に滞在が認められる仮放免の措置で暮らしている。

ウティナン君はタイを訪れたことはなく、タイには友人もないという。タイ語で日常会話はできるものの、読み書きはできず、出頭するまで「日本人だと思っていた」(ウティナン君)。

強制退去 タイ少年の裁判支援 甲府 住民有志ら会設立

誰もが見過ごされていいのは「ウティナン君が日本で生まれて人道的な配慮を求める。ウティナン君を支援するたべきた」と訴える。ウティナン君は「これまでイン君の裁判を支える会ができてくれた人たちに恩返し(仮称)」を発足させ、約150万円の訴訟費用や署名を働いて、自分のように困って集めるために活動する。日本への人を、手助けできる人間へとなることだと思っ。日本として退去強制処分が取り消普通的生活をさせてほしい」とされた判例もあり、山崎さんと話している。

東京入国管理局から受けた退去強制処分の取り消しを求めている、タイ人で甲府南西中3年ウォン・ウティナン君(14)＝甲府市＝を支援しようとして、同校の保護者や地元住民有志らが6日、「ウォン・ウティナンさんの裁判を支える会」を設立した。ウティナン君は来年1月にも処分の取り消しを求めて提訴する考えで、同会は在留許可を求める署名と裁判費用のための寄付を呼び掛けている。

支える会の代表で、次男がウティナン君と同級生だという竹本勝さん(60)は「日本しか知らないウティナン君はタイ語で読み書きもできず、タイへ行ってとても生活できない。日本にいられるように支援をお願いしたい」と話している。

ウティナン君は不法滞在の母親(42)の元に同市内で生まれ山梨県や長野県などで育った。生活基盤がある日本へ進学して働くため、在留特別許可を求めて東京入国管理局に出頭したが、8月に退去強制処分となった。〈窪田あずみ〉